

パイレンチアルミDA (DAL) 被覆管用 取扱説明書

■はじめに

- (1) この取扱説明書は、MCCパイレンチアルミDA(DAL)被覆管用の、基本的な操作と安全な取扱方法が記載されています。
- (2) この取扱説明書では、もしお守りいただかないと大きな事故が発生する恐れのある注意事項は「警告」という見出しの下に記載されています。また、もしお守りいただかないと工具の破損とともに事故を誘発する恐れのある注意事項は「注意」という見出しの下に記載されています。
- (3) ご使用にあたっては、この取扱説明書をよく読み、十分に理解したうえで正しく作業を行なってください。この取扱説明書に表示されている操作方法および安全に対する注意事項は、このレンチを指定の目的に使用する場合のみに関するものです。
この取扱説明書に表示されていない使用目的、および締め付け対象材以外のものに使用する場合に、必要な安全に対する配慮は全て、ご自分の責任とお考え下さい。
この取扱説明書は、実際の作業をされる方がいつもお手元においてご使用ください。

■使用目的

- (1) 主としてねじ込み式配管における被覆鋼管と被覆管継手のねじ締めを行う工具で、手で持って使用します。

■仕様

- (1) 締め付け対象材と締め付け能力

※このレンチの仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

品名・サイズ	品番	締め付けできる管・継ぎ手の種類	適用される管の呼び寸法 (A表示)	被覆のスペリ許容トルク N・m (kgf・m)	くわえられる管の最大呼び寸法 (A表示)
パイレンチアルミDAL被覆管用250	PWPDAL 25	□外面ポリエチレンライニング鋼管・継手	15A	78(8)	25A
パイレンチアルミDAL被覆管用300	PWPDAL 30		20A	118(12)	32A
パイレンチアルミDAL被覆管用350	PWPDAL 35		25A	196(20)	40A
パイレンチアルミDAL被覆管用450	PWPDAL 45	□外面硬質塩化ビニルライニング鋼管・継手	32A	205(21)	50A
パイレンチアルミDA被覆管用600	PWPDA.600		50A	392(40)	65A
パイレンチアルミDA被覆管用900	PWPDA 900		80A	588(60)	90A

- 注1. このレンチは被覆鋼管・継手専用です。亜鉛メッキ鋼管(白管)など外側表面に樹脂などの被覆が施されていない鋼管・継手には使用できません。
また既設管の解体やフランジ・角ナット・一部のニップル類などには使用できません。
- 注2. 被覆のスペリ許容トルクは、被覆鋼管・継手の締め付けでレンチの歯が滑らずに作業できるトルクです。
※パイプの表面温度、パイプやレンチの状態によって異なります。

■安全に対する注意事項

▲ 警告

1. このレンチは被覆鋼管・継手専用です。亜鉛メッキ鋼管(白管)など外側表面に樹脂などの被覆が施されていない鋼管・継手に使用されますとレンチが空転し、大きな災害に結び付くことがあります。
2. 締め付け作業時に締め付け対象材に対してレンチを斜めに取り付けたり、負荷を確認せずに一気に力を加えますと、レンチが空転して大きな災害に結び付くことがあります。レンチをセットする際には、必ず締め付け対象材に対してレンチが直角になるようにセットしてください。又ゆっくりと負荷を確認しながら締め込むようにしてください。
3. 足場の不安定なところでの作業は滑ったり落下するなど大変危険です。正しい姿勢で作業できる安定した足場を確保して、作業を行ってください。
4. このレンチの取扱説明書に表示された仕様の範囲を超えてご使用になりますと、レンチが破損し思わぬ事故の原因となりますので、仕様の範囲を逸脱する使用は絶対にしないでください。

▲ 注意

1. このレンチのハンドルはアルミ製です。また上アゴ・植歯は、指定の鋼管・継手を締め付けるために製作されたものです。締め付け対象材として指定したものの以外の締め付けや錆び付いたネジの締め、既設管の解体などに使用されますと、工具が破損し事故につながる恐れがありますので、必ずこの取扱説明書に表示された仕様の範囲で使用してください。
2. レンチのハンドルにサヤ管を取り付けたり、改造したり、指定の使用目的以外に使用されますと工具が損傷し、事故につながる恐れがありますので、やめてください。
3. レンチは常に点検を行い、摩耗・損傷のある状態では使用しないでください。

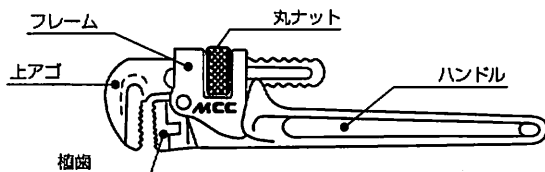
■日常の点検・メンテナンス

- ① 上アゴや歯部にコンクリートやコーキングなどの異物が付着していないか、歯の山は摩耗したり、欠損していないかを確認してください。
 - 異物が付着していれば、ワイヤーブラシ・ウエスなどで取り除いてください。
 - 付着物が除去できない場合、および歯の山が摩耗したり欠損している場合は、修理をご依頼ください。
- ② 各部のピンは緩んだり、外れたりしていないか、正常に作動するかを点検してください。
 - もし異常があれば修理をご依頼ください。

■作業を行われる前に

- ① 保安帽・安全靴・保護用手袋などを着用し、正しい服装を心がけてください。
- ② 床面の油や障害物で滑ったり、つまずいたりしないように作業場所を整頓し安定した足場を確保してください。

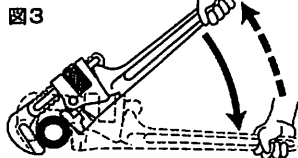
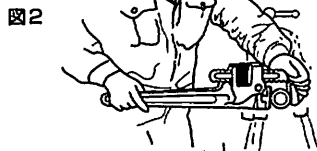
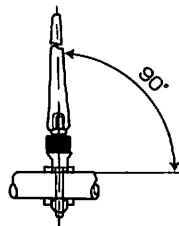
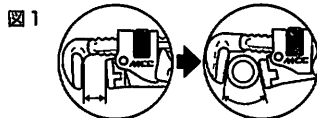
■各部の名称



■操作方法

締め付け基本操作手順

- ① 締め付けようとする管または継手に適合するサイズのパイプレンチをご使用ください。
- ② 図1のように歯部が開いた状態にして、歯の中央部でレンチが対象材に対して直角に噛むように丸ナットを回して調整してください。
 - 注：この工具は、ハンドルの反復運動で締め付ける機構となっていますので反復運動を繰り返すうちに丸ナットが緩み空転することがありますので注意してください。
- ③ セットが終わりましたら図2のような姿勢でパイプをくわえ、図3のようにハンドルを動かして締め付けを行います。
 - 注：実線矢印の方向が締め付け、破線矢印のほうに戻しになります。締め付け方向へ力を入れるときは、しっかり噛んでいるかどうか負荷を確認しながらゆっくりと力を入れ、締め付けてください。
- ④ 締め付けが終わりましたら、破線矢印の方向へハンドルを戻しながらレンチを取り外してください。
- ⑤ 締め付けは継手サイズごとの適正なトルク（継手メーカー推奨値）で行ってください。締め付けが終わりましたら、トルクレンチなどで締め付けトルクを確認することをお勧めします。



株式会社 MCCコーポレーション

株式会社 松阪鉄工所

☎ (059) 234-2454

<http://www.mccc corp.co.jp>